

皆さん、こんにちは！

いよいよ令和4年度が始まりました。

昨日は、中高の合同入学式が行われ、中学生106名、高校生154名が、新たに仲間に加わりました。

今日の始業式は、高校生は体育館で対面で参加していますが、中学生は各教室からオンラインで参加しています。

オンラインを使った集会は、パワーポイントなどが使えるので、いろいろな情報を伝えられる、というメリットがありますが、対面には、対面ならではのメリットがあることに改めて気付きました。

それは、「こちらからも、皆さんの姿が見える」ということです。今日から、皆さんの制服が、男女別ではなく、Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型の選択制に変わりました。第3の制服であるⅢ型を選んだ新入生は、中学生で約30名、高校生で約20名、合わせて50名以上が選択してくれました。

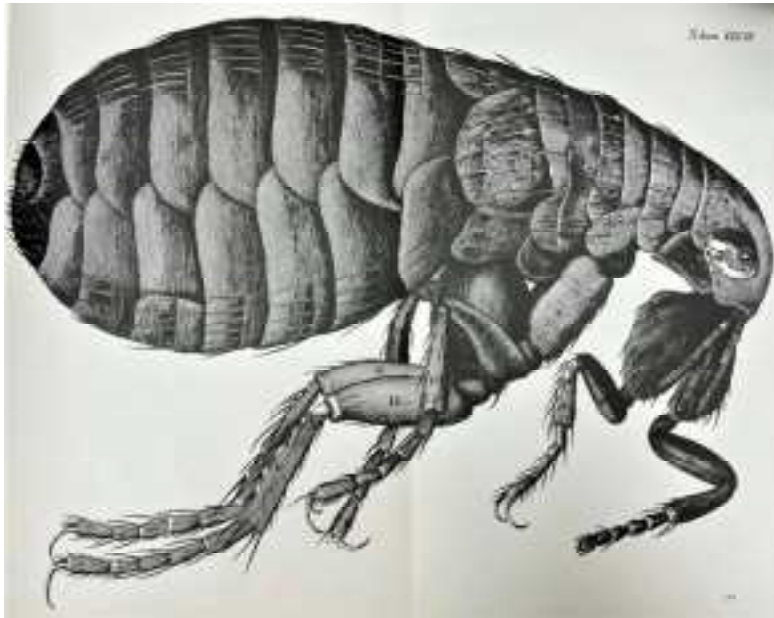
(注) 在校生でも注文した生徒が10数名いました。納入は4月末くらいになるそうです。なお、今回、購入を希望しても買えなかった生徒もたくさんいました。大変申し訳ありませんでした。なお、今後、業者の生産体制が整えば、随時、購入が可能になります。その際は、お知らせする予定です。

性別を問わず誰もが着られる「第3の制服」は、生徒の皆さんが行動を起こし、チャレンジした結果でもあります。「誰もが心地よい」制服ができたことをとても嬉しく思います。

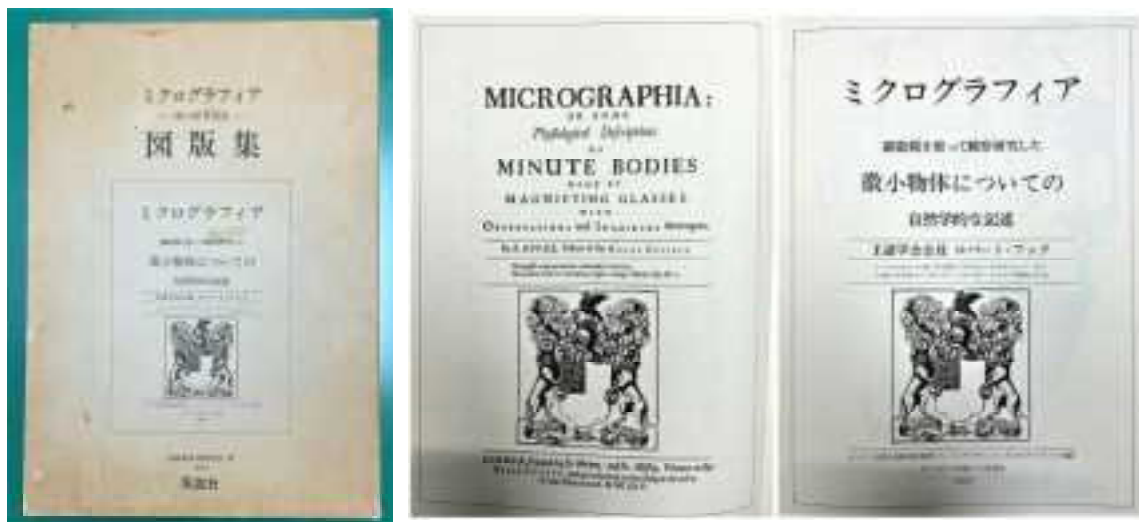
第3の制服に限らず、様々なチャレンジが、学校の至る所で、当たり前のように行われている学校は、私の知る限り、少なくとも県内には他にはありません。全国でも誇れる学校だと思います。

皆さんにはこれまで、折に触れて、チャレンジすることの大切さを伝えてきました。今日は、「なぜ、チャレンジすることが大切なのか」について、少し、お話したいと思います。

今から、1枚の絵を見せます。
さて、これは何でしょうか？



これはロバートフックという17世紀の科学者が、自作の顕微鏡を使って見た「ノミ」のスケッチです。



皆さんは、ノミという生物を知っていますか？ ノミは、犬やネコなどのペットやヒトなどに寄生し、血を吸って生活しています。ノミの実際の体長は数ミリで、「蚤の心臓」と言う言葉があるくらい非常に小さな生物です。

このノミのジャンプ力は驚くべきもので、この後ろ脚で体長の約100～150倍もの高さを飛んで動物に寄生します。1 m近くジャンプすることが出来ると言われています。

仮にノミがこのスケッチと同じ大きさだとしたら、体長50 cmなので、50 mくらいの高さまでジャンプすることになります。ちなみに、50 mは、「進撃の巨人」に出てくる街を取り囲む壁の高さに相当します。

ロバートフックは、なぜ、ノミがこんなにジャンプ力があるのかを知りたくて、顕微鏡で観察し、このようなスケッチを残しました。

このノミを使った面白い実験があるので紹介します。

(注) リクルート発行「キャリアガイダンス」2021年12月号に掲載されていました。

ノミをコップに入れて、上から蓋をします。ノミはコップから出ようと必死にジャンプをしますが、蓋に当たって出れません。

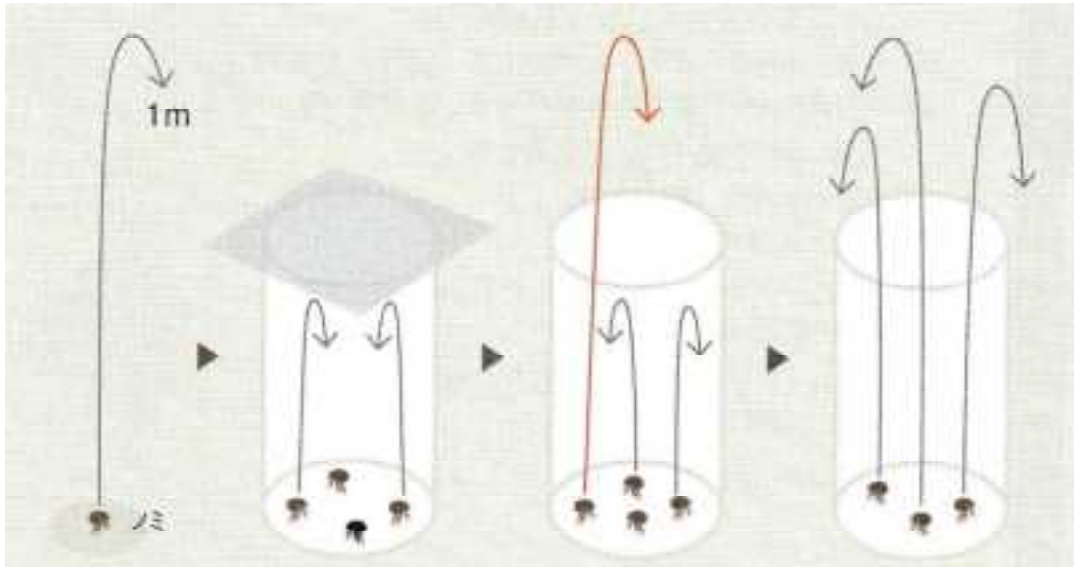
何度も何度も、蓋にぶつかる体験を繰り返すことで、蓋にぶつからないように、ジャンプする力を弱めてしまいます。その後、コップにかぶせてある蓋を取ったとしても、ノミは蓋があった時の高さしか飛ばなくなり、外に出ることが出来なくなるそうです。つまり、自分で自分の限界を作っている状態です。



では、この「飛べなくなったノミ」を再び飛べるようにするには、どうすればよいでしょうか？

それは、新たに、飛べるノミと一緒にする、つまり、自分の横でぴょんぴょん飛び跳ね、限界を越える仲間の姿を見ることで、自分が高く飛べることを思い出すのだそうです。

これが、ノミを使った実験結果です。



リクルート発行「キャリアガイダンス」2021年12月号より

実は、人間も同じように、過去の経験や思い込みが、知らず知らずのうちに、自分を制限する「枠や限界、見えない壁」となっていることがあるのではないのでしょうか。

今回の第3の制服も、社会全体にある枠や限界、見えない壁を越えたからこそ、達成できたのではないかと思います。

本当はもっと飛べるのに、ここまでしか飛べない、と決めたのは自分です。そして、この枠や限界、見えない壁を跳び超えようとすることが、チャレンジであり、成長のチャンスでもあります。

そして、チャレンジや成長は、限界を越える仲間の姿を見たノミのように、生徒から生徒へ、どんどん広がっていく、そんな

な可能性に満ちています。

本校の第3の制服の導入によって、おそらく他校でも導入しようとする際のハードルはかなり下がりました。本校生のチャレンジは、間違いなく世の中を変えました。

ところで、チャレンジすることは、自分にとっても大きな意味があります。チャレンジは、自分の「枠」を超えるために必要なものであり、いったん「枠」の外に出ることで、初めて自分自身を深く理解することが出来るのです。

皆さんには、この1年間、自分の枠を越える様々なチャレンジをして欲しいと思います。その実現のために、学校ができることがあれば、惜しみなく協力するつもりです。

チャレンジの大きい、小さいは関係ありません。それをみんなに知ってもらうことで、「枠」を越えることにためらっていた人にも、勇気を与えられることがあるかもしれません。自分は今、こんなチャレンジをしている。そんな人は、ぜひ、話を聞かせてください。校長室便りを通して、みんなにも知ってもらおうと思っています。

そのためにも、校長室のドアは、いつも開けておきます。

皆さん一人一人がチャレンジし、成長することによって、学校はどんどん変わっていきます。私は、生徒や先生方とともに、この学校を、もっともっと、皆さんにとって、幸せな学校にしていきたいと思っています。

皆さんにとっても、佐高や佐附中が誇れる学校となることを期待して、1学期始業式の式辞とします。